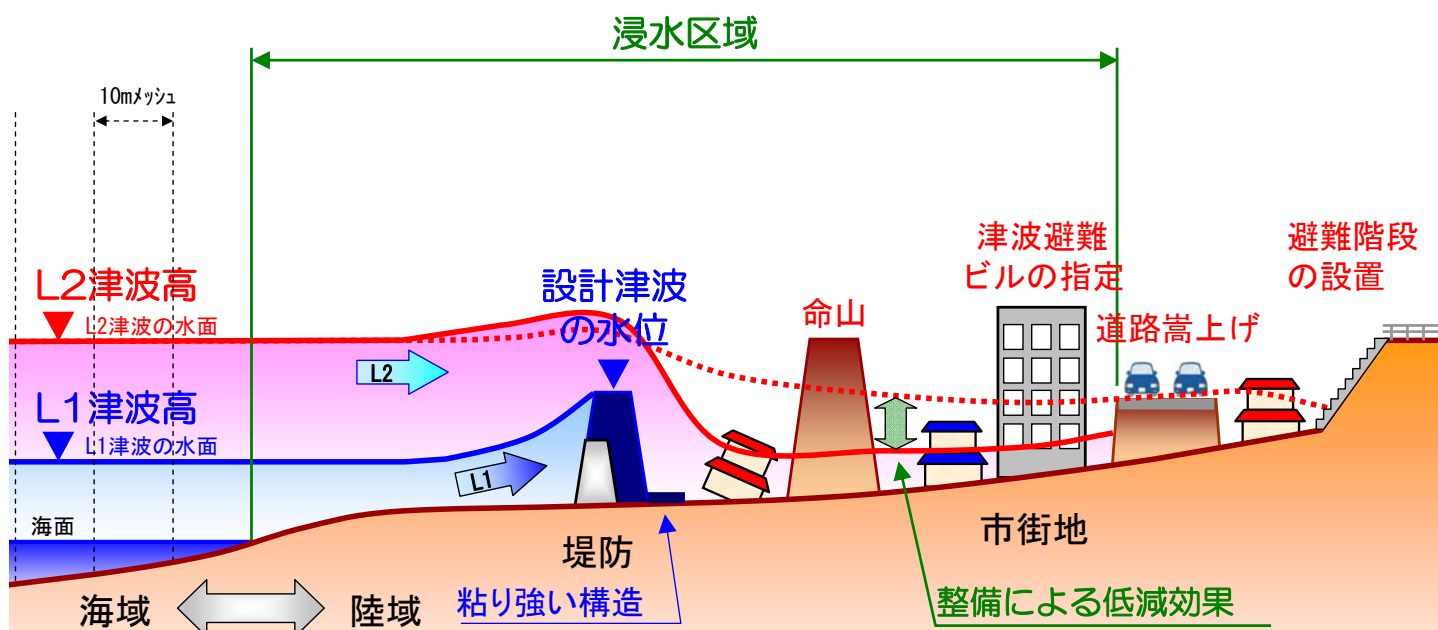


○静岡県の津波対策は、国の指針等を踏まえ、次の2つの対応を基本に整備を進めていく。

区分	整備内容	備考
当面の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○レベル1の津波を防ぐ施設高の確保。 ○施設の耐震性の確保（液状化対策等）及び津波が施設を乗り越えた場合にも粘り強く効果を発揮する構造への改良。 	全県的に、早期の完了を目指して整備を進める。
中長期的な対応	<p>レベル2の津波に対して、ハード、ソフトの対策を組み合わせた「多重防御」によるまちづくり</p> <p>→居住地域の地盤の嵩上げ、命山や津波避難タワーの設置、津波避難ビルの指定、二線堤の整備、内陸部への展開等を市町や民間などと連携して進める。</p>	津波防災地域づくり法等に対応した中長期的な取組 「内陸フロンティア」を拓く取組

基本的な対策の考え方

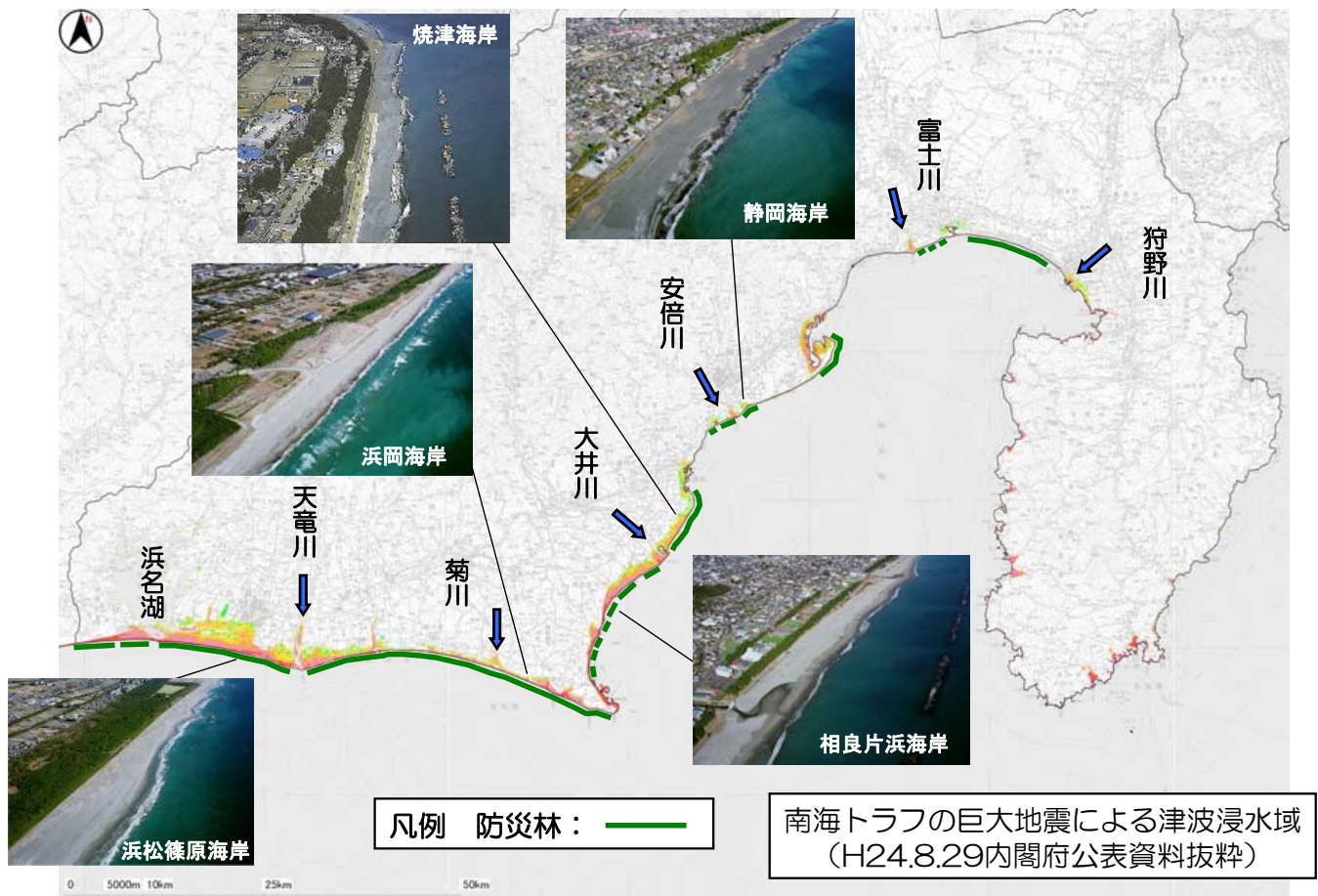


津波対策

- L1 津波：施設整備（堤防嵩上げ、粘り強い構造）
- L2 津波：避難施設（命山、津波避難ビルの指定）
津波防護施設（道路嵩上げ）←津波防災地域づくり法

- 津波の到達時間が短く、多くの人口、資産を抱えている地域で、広範囲に浸水被害が想定されるという本県特有の課題がある中で、砂浜背後に広がる防災林の有効活用等により、被害の軽減を図っていく。
- 津波の規模やそれに対する防御方法については、被害軽減効果、周辺地域の津波挙動の変化及び住民の避難意識に与える影響など、総合的に判断して決定する。

津波の浸水域と地形の特徴



静岡県における津波対策の整備方針(案)

区分	整備内容	備考
当面の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○レベル1の津波を防ぐ施設高の確保。 ○施設の耐震性の確保（液状化対策等）及び津波が施設を乗り越えた場合にも粘り強く効果を発揮する構造への改良。 	全県的に、早期の完了を目指して整備を進める。
中長期的な対応	<p>レベル2の津波に対して、ハード、ソフトの対策を組み合わせ「多重防衛」によるまちづくり。</p> <p>→居住地域の地盤の嵩上げ、命山や津波避難タワーの設置、津波避難ビルの指定、二線堤の整備、内陸部への展開等を市町や民間などと連携して進める。</p>	津波防災地域づくり法等に対応した中長期的な取組 「内陸フロンティア」を拓く取組

○上記の取組に併せ、本県の地域特性を踏まえた『静岡モデル』の取組を検討する。

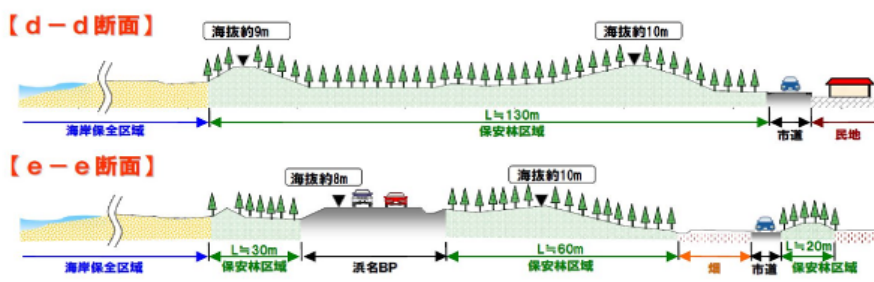
区分	整備内容	備考
静岡モデル	<p>地域の実情を踏まえ、既存の防災林や砂丘等の嵩上げ・補強による安全度の向上。</p>	<p>地形的な条件、地域の合意等の条件が整った地域に対して検討を進める。</p>

浜松市沿岸域

整備区間（西側区間）

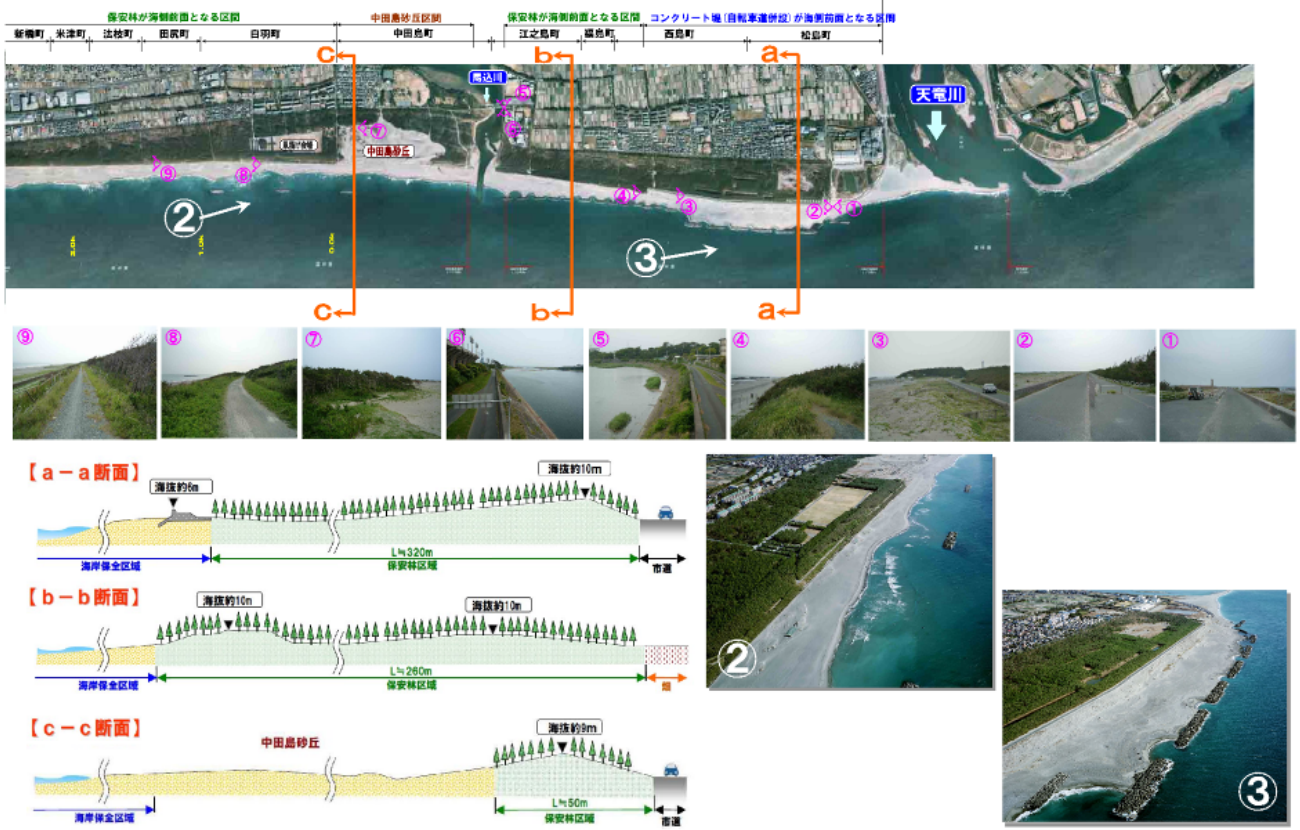
浜松市沿岸現況写真(浜名湖今切口～天竜川)

約17.5km区間



整備区間（東側区間）

約17.5km区間



浜松市沿岸域の防潮堤の構造イメージ



代表断面

海側

陸側

